

# 職業指導における授業実践

豊田 善敬\*

## Class practice in vocational guidance

TOYODA Yoshinori\*

キーワード：職業指導，進路指導，キャリア教育，工業高校，工業科教員

---

### 1. はじめに

小生は、2017年より本学の非常勤講師として、システムデザイン工学部(デザイン工学科)、未来科学部、工学部、工学部第二部において、教職課程の配当科目である職業指導を担当させていただきました。

以下、これまでの授業実践をもとに報告する。

### 2. 高等学校「工業」の教員免許状取得

本学では、教育職員免許法に基づいて、取得できる教員免許状の免許種・学校種・教科によって、所属学部・学科等で定めている※1。教員免許状取得のためには、取得免許状の種類により、決められた科目を履修し、修得することで学部卒業(学士)と同時に一種免許状が、大学院修士修了(修士)と同時に専修免許状が取得できる※1。

したがって、職業指導は、教育職員免許法施行規則に基づき、「教科に関する専門的事項」を学ぶ科目の一つとなっている。

### 3. 職業指導を教示するにあたり

前項で述べたように「教科に関する専門的事項」である職業指導の授業は、職業指導に関する一般的

包括的な内容を含むものとするのが求められ指導内容等は、特に明記されていない。そこで、本学で担当されていた先生並びに他大学のシラバスを参考に職業指導のシラバスを作成し、教示することとした。

職業指導の授業では、職業指導の意義と役割、職業指導の歴史と今日の課題、職業の選択・決定に関わる指導(進路指導)、進路指導とキャリア教育、進路指導等に関する関係法令、進路指導計画、進路指導の組織体制などについて、具体的な事例を通して、職業指導に関する知識・指導法を教示することとした。また、職業指導に関する時事的な話題や本学が推進しているアクティブラーニングを取り入れた授業を実施した。特に授業の中でグループワークを行い、自分の考えを自分の言葉で相手に伝えること、そしてグループでまとめたことを発表する機会を設けた授業を展開した。そのため座席は、昼間部と二部の学生を交互に着席させる工夫をした。意識的に昼間部・二部の学生間の意見を交換させることで、授業内容をより深く理解させることができた。学生の中には、普通科高校を卒業した学生と工業科高校を卒業した学生が同グループとなり、具体的な内容や課題を話し合っていた。その効果は、毎回の授業終了後に提出させている授業レポート「授業で得られたこと」に学生たちが記している。

---

\*工学部人間科学系非常勤講師 Part-time Lecture, Department of Humanities, Social and Health Sciences, School of Engineering

## 4. 職業指導とは

日本の職業指導は、1915(大正 4)年に入澤宗壽(東京帝国大学教授)が、アメリカの Vocational Guidance を職業指導と訳して紹介したのが始まりとされている。

1947(昭和 22)年、文部省は、「職業指導とは、個人が職業を選択し、その準備をし、就職し、進歩するのを援助する過程である※2。」と定義している。また、学習指導要領 職業指導編(試案)には、「職業指導は個人が職業を選択し、その準備をし、就職し、進歩するのを援助する過程である。さらにこれを学校における職業指導の立場から細かに述べると、次のような目標が挙げられる。」

- ① 各種の職業および職業人についての理解をもたせること。
  - ② 就職および進学についての理解をもたせること。
  - ③ 労働愛好の精神および態度を養成すること。
  - ④ 職業および職業生活における研究的態度を育成すること。
  - ⑤ 基礎的職業技能および応用の能力を養うこと。
  - ⑥ 個性の自覚とその伸長をはかること。
  - ⑦ 適当な職業を選択する能力を養成すること。
  - ⑧ 適切な相談をすること。
  - ⑨ 適切な就職指導をすること。
  - ⑩ 適切な輔導をすること。
- と 10 項目が示されている。

〈表〉 職業指導を受講した学生数

年度	昼間部			二部			科目履修生	学生計
	普通科卒 総合学科卒	工業科卒	無回答	普通科卒 総合学科卒	工業科卒	無回答		
2017	0	2	0	3	5	0	1	11
2018	5	2	7	0	1	0	1	16
2019	4	4	3	2	4	1	0	18
2020	9	2	2	5	6	0	1	25
2021	5	3	0	3	7	0	1	19
2022	6	0	2	3	4	2	4	21
2023	8	1	5	4	1	1	0	20
計	37	14	19	20	28	4	8	130

1955(昭和 30)年の文部省「中学校・高等学校職業指導の手引」管理運営編では、「学校における職業指導は、個人資料、職業・学校情報、啓発的経験及び相談を通じて、生徒が自ら将来の進路の選択・計画をし、就職または進学して、さらにその後の生活によりよく適応し進歩する能力を伸長するように、教師が教育の一環として、組織的・継続的に援助する過程である。」と示されている。

## 5. 職業指導を受講した学生数 (2017～2023 年度)

〈表〉は、職業指導の第 1 回授業で受講した学生に対して、アンケート調査をしたものを一覧表にしたものである。あくまでも自由申告のため無回答もある。表中の数字は、履修・修得の学生のみとし、昼間部、二部、科目履修で区分、高校卒業学科は、普通科・総合学科と工業科の区分とした。科目履修生については、高校卒業学科を不問とした。なお、本学在学年と性別も不問とした。ただし、2022 年度の昼間部のデータには、諸事情により理工学部の学生も含まれているので留意していただきたい。

7 年間の授業で受講した学生数を改めて集計したところ、累計で 130 名であった。本授業を受講している昼間部の学生は、普通科高校の卒業が多く、二部の学生は、工業科高校の卒業が若干多いことがわかる。このことから、3. で述べたように、昼間部と二部の学生がお互いに意見を交換できる環境を整えたことによって、授業内容をより深く理解させ、効果的な授業を行うことができた。

本授業の履修条件は、教育職員免許状「工業」取得希望者を原則としている。〈表〉2023年度の受講学生20名の内訳は、教員志望9名、教員志望無7名、無回答4名であった。特に教員志望の約半数は二部の学生である。教員志望無の理由については、大学院への進学、企業へ就職したのち教員を目指す、教員免許のみを取得希望など様々であり、他の年度においても同様の傾向がみられた。このことから本授業は、将来の工業科教員を目指す学生はもちろんのこと企業に就職する学生についても有益となる内容を重視した授業を実践してきた。

## 6. 授業実践

職業指導で教示したこと、授業を受けた学生の反応(感想)について、次に記述する。

### (1) 産業構造の変化に伴う雇用形態の現状と課題

産業構造とは一定の地域内に存在する産業部門の構成比率であり、その地域の産業の特徴を示す一つの指標である。そして、産業はその特徴により産業部門に分類できること、各産業部門の大きさを測定する共通の基準が存在すること、さらに経済の進歩(変化)を反映して、変化することがあげられる。

雇用形態としては、正社員、派遣労働者、契約社員(有期労働契約)、パートタイム労働者、短時間正社員、業務委託(請負)契約を結んで働く者、家内労働者、在宅ワーカーなどである。また、女性の就業に関わる制度は年々整ってきてはいるが、女性の就業率向上も課題の一つである。

今後の事業や雇用の広がりが期待される分野として、福祉、介護事業(児童関係以外)、流通・物流事業、無店舗小売事業(ネット通販等)、情報サービス事業(システムソリューション等)が考えられる。その人材育成も課題であり急務と言える。

職業指導の必要性として、求人状況の変化、求職と求人のミスマッチ、雇用システムの変化、勤労観・職業観の低下、社会人としての意識の低さがあげられる。では、指導上の留意点は何か。生涯にわたり学び続ける意欲、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力などの育成が不可欠である。特に工業高校生の就職指導において、多様な働き方を考えさせるうえで大切なことである。

【2023年度・学生A】産業や雇用形態・働き方についての知識を得られた。産業については、他の授業で学習した内容でもあったが、産業構造の概念、産業の増減などについては、新たに理解できた。多様化する働き方は、産業構造・職業の変化に伴う雇用形態について学び、様々な働き方があることを把握した。将来教員となるにあたり、生徒に様々な働き方があることに留意して職業指導を行いたいと考えるようになった。

### (2) 工業高校における進路指導の現状と課題

工業高校の卒業学年における就職は約7~8割、進学は約2~3割が一般的な進路状況となっている。入学当初から実施してきた進路指導の成果を基盤に生徒自らの意志と責任において、就職先・進学先を選択させ進路実現を目指す。そのために個別的・具体的・実地的な支援を行うことが大切なことである。就職・進学などの指導を適正かつ効果的なものとするためには、進路指導計画に基づき、ホームルーム活動や進路ガイダンスなどを通して指導することが望まれる。また、保護者にとって、わが子の進路は重要な問題である。そのために進路指導・キャリア教育は、特に学校の指導に対する家庭の理解と協力がなければ十分な成果を上げることはできない。教師の一方的な意見を押し付けず、保護者が子供の進路選択に関して適切な判断ができるよう支援すること、保護者に共感的理解を示し、相互理解を図るようきめ細かな配慮をすることである。

【2023年度・学生B】生徒が進路について、具体的かつ希望を叶えられるように、他の機関とも連携し、職業生活に触れる機会を多く与えることも重要であるということを理解した。

【2023年度・学生C】高校生における就職や進学の指導方法について、高校生自身だけではなく保護者や担任の協力なしにはできないことを感じた。

### (3) 技能検定制度と日本版デュアルシステム

厚生労働省が実施している技能検定とは、働くうえで身に付ける、または必要とされる技能の習得レベルを評価する国家検定制度である。検定職種は、機械加工、建築大工やファイナンシャル・プランニングなど全部で131職種(2023年度)の試験がある。

試験に合格すると合格証書が交付され、「技能士」と名乗ることができる。検定職種の中には、高校在学中に取得できるものも多くあり、将来の進路を考え実現させるために大いに役立つ。そして資格を取得したことによって、自信に繋がるものである。

日本版デュアルシステムは、ドイツにおける職業教育制度であるデュアルシステムを参考事例に技術を身に付けて職業人として、自立できる生徒や職場において、自らの技術・技能を深めながら学習の場を求める勤労青少年の育成を図る観点から、企業と高校が連携を図り、職業観や勤労観を育成するとともに、「働くことが学びになる」新しい教育システムである。東京都は、「東京版デュアルシステム」導入を決定し、東京都立六郷工科高校(2006年4月開校)にデュアルシステム科を設置した。現在では、葛西工科高校と多摩工科高校にデュアルシステム科が設置され人材育成が進められている。

【2023年度・学生D】工業高校の生徒が取得できる資格を調べてみて、沢山あるのに驚いた。

【2023年度・学生E】資格や検定を取得することについて、職業上必要なものと高校で取得可能なものを比較することにより、高校在学中に資格試験や検定試験に挑戦することが将来どのようなメリットにつながるのかを理解することができた。

【2023年度・学生F】今回の授業では、職業上必要な資格・検定および高校生が取得できる資格・検定、そして日本でもデュアルシステムを取り入れた教育システムが導入されていることを学んだ。

#### (4) 工業高校の学校訪問

5. で述べたように、本授業を受講している学生の大半は、普通科高校の卒業であり、工業高校の教育内容や生徒たちのことを全く理解できていないため、2019年に学校見学を実施した。工業高校の授業を参観するとともに進路指導状況の把握、実験・実習の施設・設備等を見学させ、将来の工業科教員としての心構え並びに教科指導、進路指導・キャリア教育の現状を理解させることができた。見学した学生たちは、工業高校の充実した施設・設備に驚いていた。また、「工業の先生はいろいろなことを生徒と一緒に学ぶことができる」「実践を通して理論

を学ばせる」「5Sの徹底」「実習時の安全指導」という校長先生の言葉が今でも印象に残っている。

## 7. おわりに

第15回目の授業は、職業指導の授業のまとめとした。この回は、授業内容の要点整理を行うとともに学習成果を見極めるための学力考査代替レポートを作成させ提出させた。レポートの項目に「職業指導の授業で得られたことについて述べよ」という設問を設定し、記述させた。【2022年度・学生G】は、「他の人の意見を聞くことで、より職業指導を行う上で何が重要であるかといった指導のポイントを学ぶことができた。職業指導の授業の中で、特に職業指導の重要性と就職活動の内容について深く学ぶことができた。得た知識を保持しておくだけでなく、教師の立場に立った際にどのように伝えるかといった指導方法についても今後考えて実践できるように努めたいと職業指導の授業全体を通して感じた。」と述べている。このことからわかる様に、本授業を通して、受講した学生たちが今まで学生(生徒)の立場でしか経験してこなかったことを、勤労観・職業観の育成と指導法を教師の立場で捉え、考え、実現に向かう気構えを身に付けさせることができたことは、小生にとって、大いなる成果となった。

## 参考文献 等

- ※1 東京電機大学「学生要覧」2023(令和5)年度
- ※2 文部省「職業指導の定義」1947(昭和22)年
- ※3 教育職員免許法施行規則(文部科学省令)

〈参考書〉

高等学校学習指導要領解説「総則編」(文部科学省、東洋館出版)

進路指導・キャリア教育の理論と実践(吉田辰雄・篠 翰、日本文化科学社)

職業とは何か(梅澤 正、講談社)

教育の職業的意義(本田由紀、筑摩書)